

平成 23 年 2 月の解説（府県天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は、冬型の気圧配置が持続せず低気圧が日本付近を次々と通過し、全国的に天気は短い周期で変化しました。中旬は、低気圧が本州の南岸を周期的に通過して、天気は数日の周期で変化しました。また低気圧の通過に伴い太平洋側でも雪が降り、積雪となった所もありました。沖縄・奄美は前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。下旬は、低気圧が日本付近を周期的に通過し、天気は数日の周期で変化しました。25日にはサハリン付近の低気圧に向かって南風が吹き、関東地方では春一番を観測しました。

月を通しての日照時間は、北日本と東日本から西日本の日本海側と沖縄奄美では平年より多く、特に北日本から東日本の日本海側ではかなり多く、月間日照時間の最大値を更新した気象官署がありました。降水量は、北日本から西日本の日本海側で平年より少なく、特に東日本の日本海側ではかなり少なく、月降水量の最小値を更新した気象官署がありました。東日本から西日本の太平洋側は平年より多くなりました。気温は、全国的に平年より高く、特に北日本ではかなり高くなりました。

【2月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 84%と例年^(注)より 1 ポイント高く、明後日予報は 80%と例年並になりました。地域毎の適中率は、明日予報は北海道地方で例年より 6 ポイント高くなりましたが、九州地方は 5 ポイント低くなりました。明後日予報は北海道、北陸、中国地方で 7 ポイントから 8 ポイント高くなりましたが、東海、九州南部地方ではそれぞれ 6 ポイントと 5 ポイント低くなりました。明日の最高気温の予報誤差はほぼ例年並の地方が多く、全国平均は例年並の 1.6 でした。最低気温の予報誤差もほぼ例年並の地方が多く、全国平均は例年並の 1.6 でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の天気予報の利用にあたって】

春は黄砂が飛来しやすい季節です。日本で観測される黄砂は3月に急増し、4月にピークを迎えます。黄砂は、東アジアの砂漠地域や黄土地帯で強風によって舞い上がった鉱物粒子が大気中を浮遊し、遠方に降下する現象です。日本では、黄砂は屋外の洗濯物や車などを汚したり、視程を悪化させ交通障害の原因となることがあります。気象庁ホームページでは黄砂情報を毎日発表しており、社会的に影響を及ぼすような黄砂が予想される場合は気象情報や天気予報の概況で注意を喚起しています。

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>